



アグリメック®



アグリメック®

syngenta.

## 成分・性状

商 品 名：アグリメック（登録番号 第23235号）

一 般 名：アバメクチン (Abamectin)

試 験 名：SYJ-159乳剤

有効成分の種類および含有量：アバメクチン1.8%  
(アベルメクチンB1a 1.44%、アベルメクチンB1b 0.36%)

外 観：淡黄色澄明可乳化油状液体

人 畜 毒 性：劇物

## 安全性

### 人畜毒性（アグリメック）

急性経口毒性：LD<sub>50</sub>（ラット）891mg/kg（♀）

急性経皮毒性：LD<sub>50</sub>（ラット）>5,050mg/kg（♂、♀）

急性吸入毒性：LC<sub>50</sub>（ラット）>5.04mg/ℓ（♂、♀）

皮膚刺激性：皮膚刺激性なし

皮膚感作性：皮膚感作性なし

眼刺激性：軽度

### 水産動植物への影響（アグリメック）

魚類急性毒性：LC<sub>50</sub> 0.49mg/ℓ（96時間：コイ *Cyprinus Cprpio*）

ミジンコ類急性遊泳阻害：EC<sub>50</sub> 95 μg/ℓ（48時間：オオミジンコ *Daphnia nagha*）

藻類生長阻害：ErC<sub>50</sub>=>100mg/ℓ、

NOErC=10mg/ℓ（72時間：緑藻 *Pseudokichneriella subcapitata*）

## アグリメックの特長

アグリメックは難防除害虫に対して、速効性・残効性による優れた効果を示す新規殺虫剤です。

- ・優れた効果で外から飛び込む虫の増殖を抑え、**花き類・観葉植物への散布回数を減らし、省力化を実現**します。
- ・**ねぎ**の難防除害虫である、**ネギアザミウマ**に対して**高い効果**を示し、収穫 3 日前まで使用できます。
- ・**なす、すいか、メロン、ピーマン**の難防除害虫である、**アザミウマ類**に対して**高い効果**を示し、収穫前日まで使用できます。
- ・**茶**の**チャノキイロアザミウマ、チャノナガサビダニ、チャノホソガ**を同時に防除でき、摘採 7 日前まで使用できます。

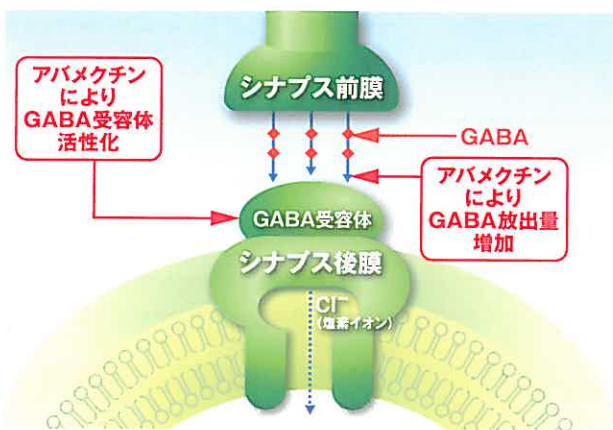
# 作用機作

抑制神経接合部では、GABAなどの神経伝達物質が受容体に結合することにより細胞膜上の塩素チャンネルが開き、塩素イオンが細胞内に流入することによって膜電位が下がり興奮を抑制。虫体内では、この神経性抑制神経伝達物質と興奮性神経伝達との強調により、神経伝達のバランスが保たれています。

有効成分アバメクチンは、シナプス末端に存在するシナプス前膜からのGABAの放出を促し、放出されたGABAは筋細胞の受容部位、および筋肉細胞表面上のグルタミンH受容体上に結合します。これら結合は、細胞内への塩素イオンの取り込みを活性化。神経シグナルをブロックし、最終的には筋肉の収縮を阻止します。

神経シグナルをブロックされた害虫は麻痺し、死に至ります。

## ■作用性のイメージ



## ■散布から殺虫までの流れ



# 適用内容と注意事項

## 適用病害虫の範囲および使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アバメクチンを含む農薬の総使用回数
なす	アザミウマ類	500~1000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
すいか				500倍			
メロン							
ピーマン							
ねぎ	ネギアザミウマ	500倍		収穫3日前まで			
茶	チャノキイロアザミウマ チャノナガサビダニ チャノホソガ	1000倍	200~400 L/10a	摘採7日前まで	1回		1回
花き類・ 観葉植物	ミカンキイロアザミウマ	500倍	100~300 L/10a	発生初期	5回以内		5回以内

※農薬をご使用の際は、ご購入先または当社ウェブサイトなどで最新の登録内容をご確認ください。

## 使用上の注意事項

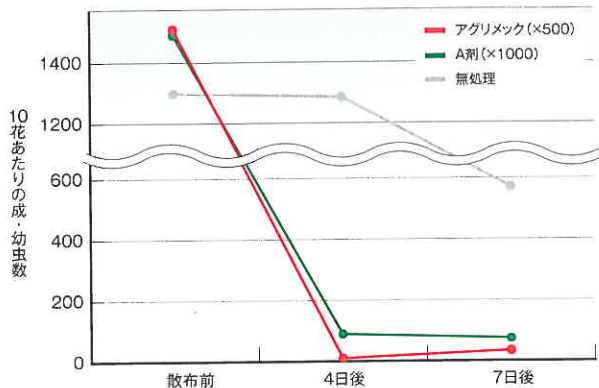
- 1) 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 2) 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着する恐れのある場所では使用しないでください。
- 3) ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ①ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
  - ②受粉促進を目的としてミツバチ等を放飼中の施設や果樹園などでは使用をさけてください。
  - ③養蜂が行われている地区では周辺への飛散に注意する等、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 4) マルハナバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
  - ①マルハナバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
  - ②マルハナバチを放飼中の施設では、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、病害虫防除機関の指導を受けてください。
- 5) 本剤の使用に当っては使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除機関の指導を受けてください。
- 6) 本剤は自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色する恐れがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 7) 適用作物群に属する作物またはその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。
- 8) 医薬用外劇物。取扱いには十分注意してください。  
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 9) 本剤は眼に対して刺激性があるので、薬剤が眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 10) 散布の際は防護マスク、不浸透手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼をしてください。
- 11) 施設内で使用する場合、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入るようにしてください。
- 12) 水産動植物(魚類、甲殻類)に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 13) 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。  
また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 14) 危険物第四類第二石油類に属するので火気には十分注意してください。
- 15) 火気をさげ、直射日光の当たらない鍵のかかる低温な場所に密栓して保管してください。

# 各作物での防除効果

## 花き類

### カーネーション

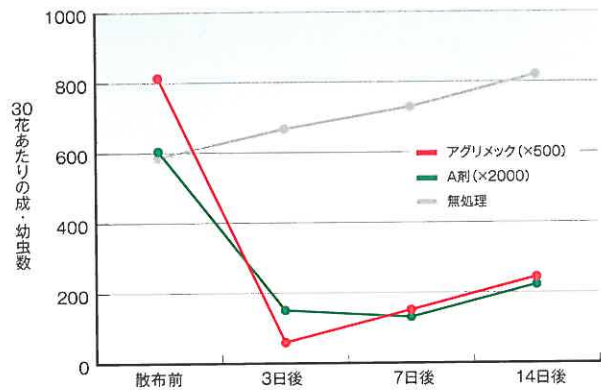
ミカンキイロアザミウマに対する防除効果



2005年 長野県野菜花き試験場  
 品種: コンチェルト 発生状況: 多発生  
 区制: 1区24株3連制  
 処理日: 6月22日 処理方法: 動噴で300ℓ/10aの薬液を散布した。  
 調査方法: 散布前・4日後は10花に、7日後は5花に生息する成・幼虫数を調査した。

### ばら

ミカンキイロアザミウマに対する防除効果

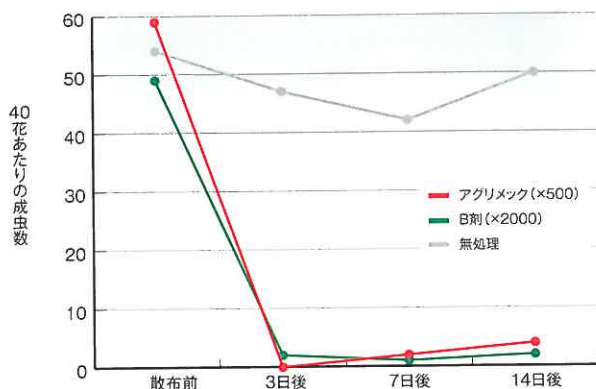


2005年 高知大学農学部  
 品種: ボルドーコルダーナ 発生状況: 少発生  
 区制: 1区12株2連制  
 処理日: 5月30日 処理方法: 肩掛け式噴霧器で葉の表裏・花が十分に濡れるように散布した。  
 調査方法: 散布前、3日後、7日後、14日後に各区より15花を採集し、50%アルコールで洗い出して虫数を生育ステージ別に調査した。

## 花き類

### きく

ミカンキイロアザミウマに対する防除効果

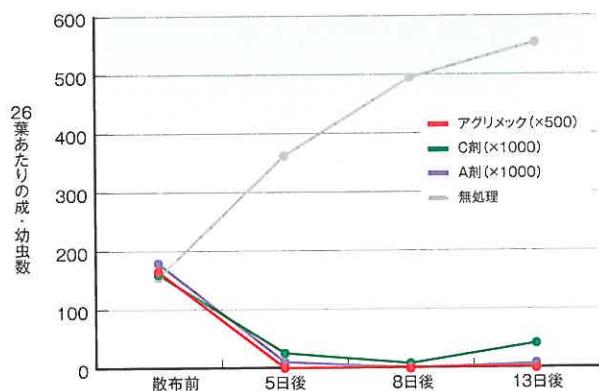


2005年 高知大学農学部  
 品種: 小菊 発生状況: 少発生  
 区制: 1区12株2連制  
 処理日: 7月13日 処理方法: 肩掛け式噴霧器で葉の表裏・花が十分に濡れるように散布した。  
 調査方法: 散布前、3日後、7日後、14日後に各区より20花を採取し、50%アルコールで洗い出して虫数を生育ステージ別に調査した。

## 果菜類

### すいか

ミナミキイロアザミウマに対する防除効果



2006年 日本植物防疫協会研究所 宮崎試験場  
 品種: マダーボール2号 発生状況: 少発生→中発生  
 区制: 1区15株2反復  
 処理日: 7月5日 処理方法: 背負い式全自動噴霧器を用いて179ℓ/10a散布した。  
 調査方法: 散布前、処理5日後・8日後・13日後に、区境株を除いた13株の株あたり下位葉2枚を任意に選び、生存する成・幼虫数を調査した。

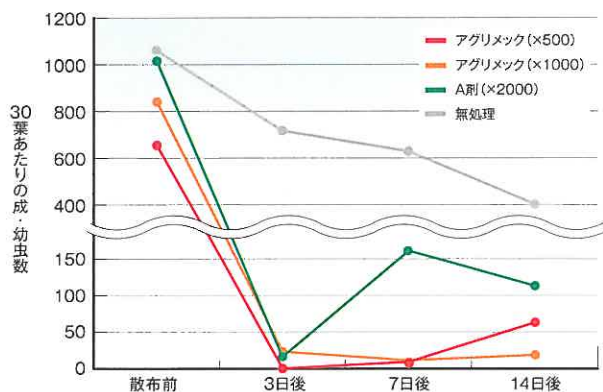


# 各作物での防除効果

## 果 菜 類

### ■ なす

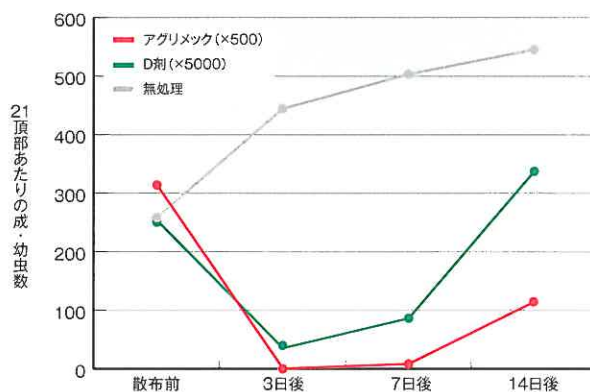
ミナミキイロアザミウマに対する防除効果



2005年 日本植物防疫協会研究所高知試験場  
 品種: 竜馬 発生状況: 中→少発生  
 区制: 1区7株3反復  
 処理日: 3月28日 処理方法: 肩掛け式動力噴霧器を用いて、444ℓ/10aの薬液を葉の表裏が十分に濡れるように散布した。  
 調査方法: 散布前、3日後、7日後、14日後に、各区任意に選んだ10主枝の上位各3葉について、寄生する成・幼虫数を調査した。

### ■ ピーマン

ミナミキイロアザミウマに対する防除効果

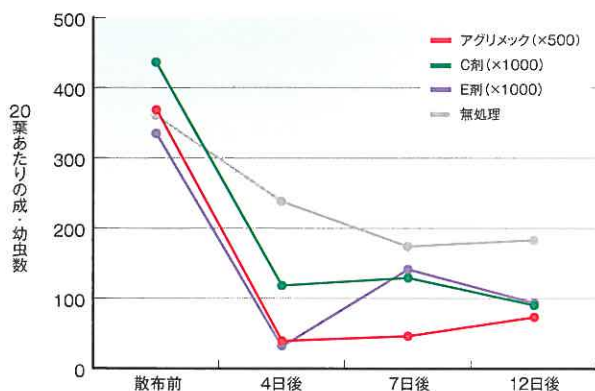


2006年 日本植物防疫協会研究所 宮崎試験場  
 品種: 京鈴 発生状況: 多発生  
 区制: 1区9株3連制  
 処理日: 5月12日に背負い式全自動噴霧器で、225ℓ/10aの薬液を散布した。  
 調査方法: 散布前日、散布3日後・7日後・14日後に、各区区境を除く7株の各株任意に選んだ3頂部(生長点+3展開葉)について、生存する成・幼虫数を調査した。

## 果 菜 類

### ■ ねぎ

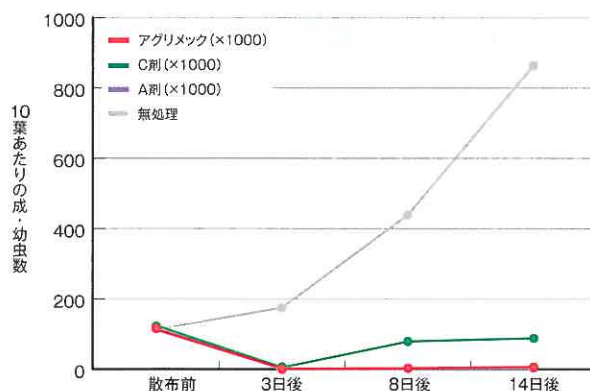
ネギアザミウマに対する防除効果



2006年 日本植物防疫協会研究所  
 品種: 越谷黒一本太葱 発生状況: 多→中発生  
 区制: 1区160株3連制  
 処理日: 7月27日に背負い式全自動噴霧器で、185ℓ/10aの薬液を葉が十分濡れるように散布した。5000倍の展着剤を加用した。  
 調査方法: 散布前、散布4日後・7日後・12日後に、各区から中央付近10株を選び、中央2葉に寄生している成・幼虫数を調査した。

### ■ メロン

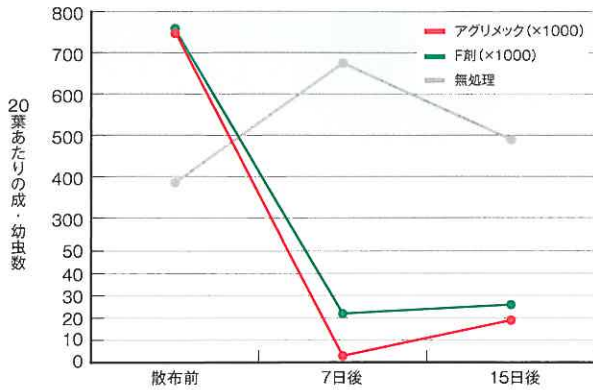
ミナミキイロアザミウマに対する防除効果



2006年 愛知県農業総合試験場  
 品種: 夏系15号 発生状況: 多発生  
 区制: 1区11株2連制  
 処理日: 7月10日に肩掛け噴霧器で、十分量の薬液を散布。5000倍の展着剤を加用した。  
 調査方法: 散布前、散布3日後・8日後・14日後に、各区から展開葉を任意に10葉選び、成・幼虫数を調査した。

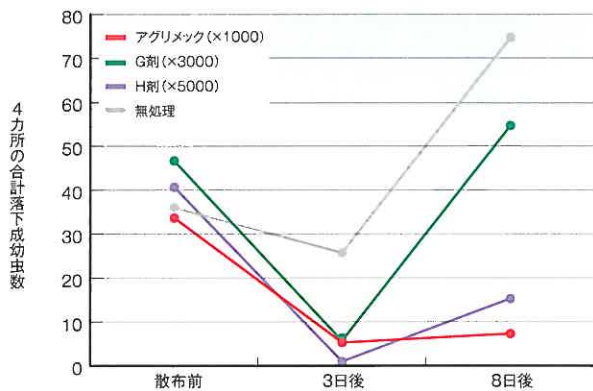
# 茶

## チャノナガサビダニに対する防除効果



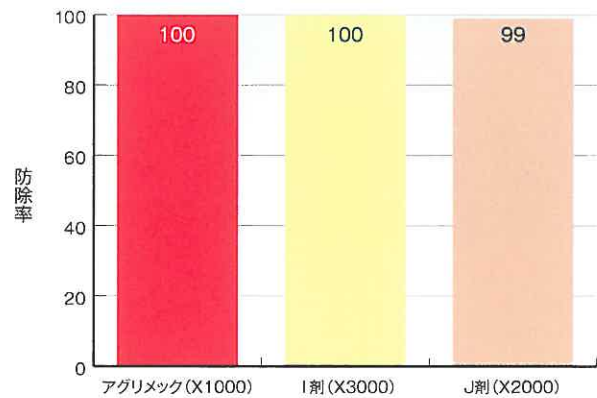
2006年 福岡県農業試験場 八女分場  
 品種:さみどり 発生状況:多発生  
 区制:1区5.4m<sup>2</sup>, 3区制  
 処理日:6月1日に肩掛け噴霧器で、400ℓ/10aの薬液を散布した。  
 調査方法:散布前、散布7日後・15日後に、各区から成葉を20枚採取して顕微鏡で観察し、葉裏に生存している成・幼虫数を調査した。

## チャノキイロアザミウマに対する防除効果



2005年 滋賀県農業技術振興センター 茶業指導所  
 品種:おくみどり 発生状況:少→中発生  
 区制:1区5.4m<sup>2</sup>, 3反復  
 処理日:8月12日に背負い式動力噴霧器で、200ℓ/10aの薬液を散布した。  
 調査方法:散布前、散布3日後・8日後に、各区4カ所について、たたき落とし法(B5版・1カ所5回)により、落下した成・幼虫数を数えた。

## チャノホソガに対する防除効果



2005年 鹿児島県茶業試験場  
 品種:やぶきた 発生状況:少発生  
 区制:1区5.4m<sup>2</sup>, 3反復  
 処理日:6月7日に葉裏への産卵を確認した後、背負い式動力噴霧器で200ℓ/10aの薬液を散布した。  
 調査方法:散布14日後に、各区全巻葉数を計数し、m<sup>2</sup>あたりに換算した。

